
篠山城跡お堀におけるミシシippアカミミガメ防除

上野真太郎・久木田沙由理・山内彩香・三根佳奈子・谷口真理

農都ささやま外来生物対策協議会

(株)自然回復

Removal of Red-eared sliders at moat of Sasayama castle.

By Shintaro UENO, Sayuri KUKITA, Ayaka YAMAUCHI, Kanako MINE, and Mari TANIGUCHI

Council of Sasayama alien species management

Nature Recovery Co., Ltd.

篠山城南堀では毎年、夏になると堀いっぱいにはハスの花が咲き、観光名物となっていたが、ミシシippアカミミガメ(以下、アカミミガメ)の食害により2006年にはハスが完全に消滅してしまった。市ではハスの再導入に向けて、2014年より堀に生息するアカミミガメの防除を開始した。2014年は過去にハスが生育していた南堀に50個の捕獲網を設置し、5月と7月、9月に防除を行ったところ、合計326匹のアカミミガメを捕獲した。アカミミガメの密度の指標をCPT(Catch per trap: 捕獲したアカミミガメの総数/設置網数)として、その値から防除の結果をみると、CPTは5月に2.40から0.06まで減少したものの、その後7月に1.31、9月は0.56と変化し、結果として9月には5月に最も低くなった値(0.06)よりも上昇してしまった。アカミミガメの密度がこのように変化した原因としては南堀以外に生息する個体が防除後の南堀へ移入したためだと考えられた。そこで、2015年は篠山城にある7つの堀(北堀、西堀、東堀、南堀、内堀、東馬出、南馬出)すべてを対象に防除を行った。防除は堀の周囲に合計150個(各堀の網設置数は北堀25個、西堀20個、東堀15個、南堀25個、内堀35個、東馬出10個、南馬出20個)の網を設置し、7月と9月に行った。その結果、合計494匹のアカミミガメを捕獲し、CPT(アカミミガメの密度)は7月に1.05から0.11となり、9月には0.08まで減少した。よって、2015年の全堀を対象とした防除事業は堀間での移入移出の影響を最小限にすることができ、アカミミガメの生息密度の減少に大きな効果があったと考えられる。